

公文書館の散歩道

～このコーナーでは、公文書館のまわりの風景をお届けします～



▲「健康美」北村西望作



▲花時計

等々力緑地入口広場にある銅像をご存知ですか？この像の題名は「健康美」作者は 長崎平和記念像の作者「北村西望」さんです。この像を見るたびに腕が大きく開いているような錯覚を覚えます。広場の奥には花に囲まれた日時計があります。この花時計は昭和61年に設置された当時、長針、短針がありました。いつからか時計の機能はなくなり美しい花壇になりました。足元の芝生の間にはクローバーが群生しています。ここで四つ葉をみつけるのもまた楽しいひと時です。散策の前に幸せ探してみませんか？

◇開館時間

午前8時30分から午後5時まで

◇休館日

毎週月曜日
国民の祝日（国民の祝日が月曜日の場合は翌日）
年末年始（12月29日から1月3日まで）

◇利用方法

市政資料室の資料は自由にご覧いただけます。それ以外の資料は、目録で検索し事務室にお申し出ください。ただし、資料の外部への持ち出しはできません。
資料等の複写サービス（実費）は、館内のコピー機がご利用いただけます。
公文書の閲覧については、情報公開制度により行います。

◇交通のご案内

【バスの場合】

- JR南武線・東急東横線「武蔵小杉駅」バスターミナルから
市バス・東急バスとも「市営等々力グラウンド入口」下車すぐ
- JR南武線「武蔵溝ノ口駅」・東急田園都市線「溝の口駅」駅前（北口）から
市バス・東急バスで「市営等々力グラウンド入口」下車

【徒歩の場合】

- JR南武線「武蔵中原駅」から約15分・「武蔵小杉駅」から約20分
- 東急東横線「新丸子駅」から約15分



川崎市公文書館

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1
電話 044-733-3933
FAX 044-733-2400
E-mail 16koubun@city.kawasaki.jp
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/16/16koubun>

ホームページのトップページは、その月、その季節や出来事に合った史料に毎月変えています。ぜひホームページにも遊びにきてください。



川崎市公文書館だより

～Kawasaki City Archives News～



KAWASAKI CITY

第20号 平成23年6月

日十月一十年八十和昭

報 公 市 崎 川

参 平

川崎市公報	第一八三號	昨日の十月と比較すると、一般者は男三六〇人、女二二人の増加を示して居る。特に産業関係者は昨年の一二二人に對して二二四人といふ激増でこの點からも本市の特質を窺ふことが出来るわけである。
一、閲覧状況	二三日	最近に於ける本館利用者の閲覧状況を申し上げますと利用者の大部分は學生、生徒と産業関係者（其中でも勤勞青年）であると云つても差支へない。
二、閲覧者数	二二三人	元來讀書には娯樂の方面と修養的方面とがあるが、前者は無計費
一般男	一〇八〇人	
一般女	八一人	
兒童男	四八五人	
兒童女	四一人	
合計	一、六八七人	
三、閲覧者内訳（一般）	六一六人	
イ 學生、生徒	九三人	
ロ 官公吏、教員	二二四人	
ハ 工業関係者	一四七人	
ニ 其ノ他一般	一六七人	
ホ 館外閲覧者	二五八人	
館外閲覧者女	一六七人	

市立図書館だより (十月分)

昭和十八年 川崎市公報
昭和十九年 川崎市公報

3月11日に発生しました「東日本大震災」で被災された皆様に対しまして、心からお見舞い申し上げます。

川崎市では、昭和11年から市広報を発刊しています。写真は、戦時中の昭和18年に発刊された市広報の市図書館だよりのコーナーです。内容は来館者の利用目的などを分析し、さらに新着図書を広報することで、より多くの市民にアピールし、ラジオや新聞で伝えきれない地域に密着した情報を提供していました。翌年の昭和19年から、現在のような告示や公示を中心とした紙面へと変わっていきました。

発行 川崎市公文書館

記録のチカラ

～神奈川新聞(4月27日から5月9日)
掲載記事から～

公文書管理法は、今年4月に施行された法律で、国の文書を適正に管理して証拠として保存するというものです。その記事が神奈川新聞の文化欄に掲載され川崎市公文書館も紹介されました。年金記録、県内の公文書館の取組み、酸性紙、事業仕分けなど様々な課題がわかりやすく読めます。公文書館内に記事を掲示してありますので、ぜひご覧ください。

Q&A

公文書とは？

「公文書」とは行政機関の職員が職務上作成し、又は取得した文書で、行政機関の職員が組織的に利用するものとして保有しているものです。公文書には保存期間がありますが、川崎市では保存期間が過ぎても歴史資料として重要な公文書を「歴史的公文書」として保存しています。

こもんじょの種 ⑧

～古文書の下から上に返って読む表現～

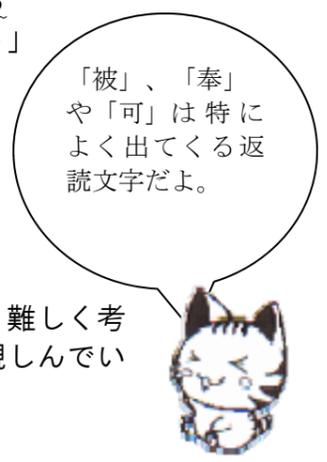
江戸時代の文書を読んでいると下の字を読んでから上に返って読む文字が出てきます。これは返読（へんどく）文字といい、江戸時代の文書の特徴の一つです。返読文字には、代表的なものとして動詞「致（いたす）・及（およぶ）・奉（たてまつる）」、助動詞「如（ごとし）・為（せ・させ・らる）・令（しむ）・不（ず）・可（べし）・被（る・らる）」、助詞「於（おいて）・乍（ながら）・従（より）」があり、その他として「難（がたし）・為（…として、…のため）・無（なし）・以（もって）」などが挙げられます。

例えば、
乍恐以書付御歎願奉申上候

ここでは「乍」「以」「奉」が返読文字で、「おそれながらかきつけをもって ごたんがもうしあげたてまつりそうろう」と読みます。

また、右之趣御聞濟被成下置候ハ、難有仕合ニ奉存候
これは「被」「難」「奉」が返読され、「みぎのおもむきおききすましになしくだしおかれそうらはば ありがたきしあわせにぞんじたてまつりそうろう」と読みます。

このように返読される文字はある程度決まっていますので、難しく考えず、古文書を読み解いていくために、この漢文調にも慣れ親しんでいきましょう。



最初に 入門古文書講座
 ・8月28日、9月4日、11日
 ・小宅里美(当館非常勤嘱託員)

講座案内
 募集の詳細については、
 ホームページでおしらせします。
 講座は全て日曜日です。
 「市政だより」

読めたら 初級古文書講座
 ・11月27日、12月4日、11日、18日
 ・桜井昭男氏
 (淑徳大学アーカイブズ主任専門員)

川崎の歴史を詳しく 歴史講座「江戸時代の川崎と街道
 ー交わる人々と文化ー」(仮)
 ・10月30日 村上直氏(法政大学名誉教授)
 ・11月6日 宇佐美ミサ子氏(法政大学史学会評議員)
 ・11月13日 岡崎寛徳氏(中央大学兼任講師、大倉精神文化研究所研究員)

さらば! 中級古文書講座
 ・1月15日、22日、29日、2月5日
 ・坂本達彦氏(國學院大學栃木短期大学専任講師)

昨年度、各講座で使用した資料は公文書館にて500円で販売していますのでお問合せください。